



『DOBOT AudiR8LMS』

Yoshiaki Katayama

Roberto Merhi Muntan

大会概要

2023年 SUPER GTシリーズ 第6戦

大会名称

2023 AUTOBACS SUPER GT Round6 SUGO GT 300km RACE

開催日時

9月16日 土曜 (予選) 9月17日 日曜 (決勝)

開催サーキット

スポーツランドSUGO (1周 : 3.586km)

所在地 : 宮城県柴田郡村田町菅生6-1

同時開催レース

2023 FIA-F4 選手権 第9戦・第10戦

主催

株式会社 菅生

菅生スポーツクラブ (SSC)

株式会社GTアソシエーション (GTA)

公認

国際自動車連盟 (FIA)

一般社団法人 日本自動車連盟 (JAF)

認定

株式会社GTアソシエーション

後援

経済産業省 / 国土交通省 / 自由民主党モータースポーツ振興議員連盟 /

公益社団法人宮城県観光連盟 / 村田町 / 名取市 / 大河原町 / 柴田町 / 蔵王町 /

川崎町 / 河北新報社 / 岩沼市観光物産協会



◆ 参戦体制

■ ドライバー



片山 義章
YOSHIAKI KATAYAMA

生年月日 1993年11月13日
出身地 愛知県
身長 168cm
体重 69.3kg
血液型 RH+O



ロベルト メリ ムンタン
ROBERTO MERHI MUNTAN

生年月日 1991年3月22日
出身地 スペイン
身長 178cm
体重 70kg
血液型 RH+O



神 晴也
SEIYA JIN

生年月日 2000年10月30日
出身地 大阪府
身長 175cm
体重 70kg
血液型 Rh+O

■ 監督

太田 雅文
Masabumi Ota

■ スタッフ

チーフエンジニア
クルーチーフ
チーフメカニック

Mattia Oselladore
小倉 啓悟
片岡 恵人

■ スポンサー

DOBOTジャパン株式会社
ザーレン・コーポレーション株式会社
TONE株式会社
高新自動車学校
ニチアス株式会社
エバー株式会社
コスモ開発株式会社
株式会社安藤・間
岡田金属株式会社
株式会社ジョイフル設備
カトー機械株式会社
株式会社デジテックエイチピー
株式会社マイティミズタニ
MIDTOWN BBQ
ウエスタンデジタル合同会社
青山エレベーター株式会社

エルアイピーリゾート株式会社
城東電機株式会社
ブランデュース株式会社
株式会社リブレ
見田工作株式会社
株式会社PACIFIC RACING TEAM
朝日金属株式会社
有限会社大和工業
有限会社ます徳
アクセル有限会社
ORIC
SPIN OFF
株式会社ケミテック渡部

◆ 予 選

天候 くもり

コース状況 ウェット/ドライ

気温 26℃ (GT300クラスQ1開始時)

路面温度 29℃ (GT300クラスQ1開始時)

予選開始 14時40分 (GT300クラスQ1-A組開始)



8月末の第5戦鈴鹿では、予選Q1をB組トップで通過するなど速さを見せながらも、決勝ではマシントラブルによりリタイヤとなったTeam LeMansのDOBOT Audi R8 LMS。

その速さをしっかりと結果に残すべく、準備を万端に整えたチームは、Aドライバーの片山義章、Bドライバーのロベルト・メリ・ムンタンとともに、スポーツランドSUGOの300kmレースに臨んだ。

この第6戦には25台がGT300クラスにエントリー。いつもどおり予選はA、Bの2組に分かれてそれぞれ10分間のQ1を行い、各組の上位8台がQ2に進出する。#6 DOBOT Audi R8 LMSはA組で、まずはQ1突破に挑んだ。

#6 DOBOT Audi R8 LMS**予選結果：7位（予選Q1ベストタイム：1分28秒119／片山選手）（予選Q2ベストタイム：1分18秒482／ロベルト選手）**

朝から上空を雲に覆われたスポーツランドSUGO。予選直前には小雨が降り出し、ウェット宣言が出されるあいにくのコースコンディションのもと、14時40分からQ1-A組のセッションがスタートした。Q1は、第4戦、第5戦連続でQ2進出を果たしている片山が担当。スリックタイヤとレインタイヤの選択が難しい状況下で、片山はレインタイヤでコースへと向かう。そして計測2周目には1分28秒119をマークする。路面とタイヤのコンディションが変わる中で、以降、片山は自己ベストを更新することはなかったものの、終わってみれば彼のタイムは8番手となり、3戦連続のQ1突破を果たしている。

15時30分からのQ2までにはウェット宣言は解除され、ロベルトはスリックタイヤでタイムアタックに挑む。さっそく計測2周目に1分18秒482をマークし、これがロベルトのベストタイムとなり、クラス7番グリッドを獲得。#6 DOBOT Audi R8 LMSは4列目という好位置から表彰台を狙うことになった。

◆ 決 勝

天候 くもり

コース状況 ドライ

気温 28℃ (スタート時)

路面温度 33℃ (スタート時)

決勝レース開始 13時30分

レース予定周回数 84周 (約300km)



#6 DOBOT Audi R8 LMS (片山&ロベルト選手)

決勝結果：3位 (所要時間：2時間45分8秒312=78周消化/ベストラップ：1分20秒619=片山選手)

コースはドライコンディションながら、厚い雲からいまにも雨が降り出しそうな空模様のスポーツランドSUGOでは、13時30分に決勝レースに向けてパレードラップが始まり、フォーメーションラップを経て戦いの火蓋が切られた。

クラス7番手からスタートした片山は、さっそくオープニングラップで#18 UPGARAGE NSX GT3を捕らえて6位にポジションをアップ。

3周目には#56 リアライズ日産メカニックチャレンジGT-Rをパスして5位に浮上する。

その後は#61 SUBARU BRZ R&D SPORT、#52 埼玉トヨペットGB GR Supra GTによる3位争いに。

そしてついに19周目、片山は#52 埼玉トヨペットGB GR Supra GTをかわして4位となり、その勢いのまま#61 SUBARU BRZ R&D SPORTに襲いかかる。

しかし、オーバーテイクの際に#61に押し出されてコースから外れ、その間に6位にポジションダウン。マシンはダメージを受けたものの、

片山は反撃の手を緩めることなく3番手まで順位を上げ、31周を終えたところでピットストップ、ロベルトにレース後半を託した。

ロベルトは14番手でコースに戻りしばらくすると、GT500クラスの#100 STANLEY NSX-GTのクラッシュによりセーフティカーが導入され、

さらに次の周にはセッションは赤旗中断となった。それから約50分後にレースはセーフティカー先導で再開され、41周目にリスタート。

ロベルトは前のマシンとの差が詰まったのをチャンスと捕らえ、先行するライバルを次々とオーバーテイクし、56周目には4位にポジションを上げる。

終盤は3番手を走る#20 シェイドレーシング GR86 GTを追う展開になるが、ポジションアップは叶わず、4位でチェッカーダフラッグを受けることになった。

ところがレース終了後、トップでゴールした#18 UPGARAGE NSX GT3に最低地上高違反が見つかり失格。

これにより、#6 DOBOT Audi R8 LMSは今季2度目の3位が確定した。

レースを重ねるごとに速さと存在感を増している#6 DOBOT Audi R8 LMS。次のオートポリス戦では悲願の初優勝を狙う。

片山 義章 選手のコメント

この菅生ではマシンに良く乗れている感覚がありました。序盤から上位勢とほぼ同じペースで走り、オーバーテイクが難しいコースで順位を上げることができました。トップが見えている状況で、さらにポジションを上げようという場面で、61号車のスバルに押し出されてしまい順位を落としました。逸る気持ちを抑えることも必要でした。それでも、今回はタイヤのマネジメントやGT500との駆け引きなど上手くできて、結果的に良いレースができたと思っています。次のオートポリスはこの調子そのまま、初優勝を狙いたと思います。



ロベルト・メリ・ムンタン 選手のコメント

片山選手も私も良いレースができたと思います。ドライバー交替後にコースに戻ったときには14番手でしたが、赤旗中断からの再開後、周回遅れの処理などに手間取りましたが、何台もオーバーテイクしてクラス4位までポジションを上げることができたのはとてもうれしい。一方、セーフティカーのタイミングはわれわれに味方せず、優勝には手が届きませんでした。次のオートポリスは昨年、全体の2番手タイムを記録するなど好きなコースですので、マシンの軽さを生かして優勝を狙っていきたいと思います。



チームコメント

前回の鈴鹿がリタイヤという結果だっただけに、チームとしてもしっかりとレースをしなければと、気を引き締めてここ菅生に臨みました。決勝では、ピットストップにやや時間がかかったり、セーフティカーを味方にできなかつたりということもありましたが、それでもきっちりとレースができたことで3位という結果につながりましたし、われわれの速さを十分アピールできたと思います。いまはマシンの調子も良く、残りの2戦はしっかりレースを戦うことで、表彰台の中央に立つ姿をスポンサーやファンの皆さまに見ていただけるようがんばります。



